

AJA KONA、Io および T-TAP™ ソフトウェアインストーラー

リリースノート- Windows v14.0.2

重要な記載事項 - 必ずお読みください

対応 OS

- ・このドライバ バージョンは、64 ビットモデルの Windows 10、Windows 8.1 および Windows 7 と互換性があります。しかし、4K/UltraHD や 60p などのハイフレームレートを使用する場合は、Windows 10 を推奨します。
- ・このインストーラーを実行する前に、AJA XENA、AJA KONA または AJA Windows など以前のソフトウェアバージョンをすべてアンインストールしてください。
- ・インストールを行う場合は管理者権限でインストーラーを実行することを推奨します。これを行うには、インストーラーを右クリックして「管理者として実行」を選択します。Windows ユーザーアカウント制御 (UAC) がオフになっている場合「管理者として実行」オプションが存在しない場合があります。
- ・その他のハードウェアに関する推奨事項および要求事項については、以下のリンクを参照ください。
<https://www.aja.com/support/kona-pc-system-configuration>

ソフトウェア

このインストーラーは下記のソフトウェアバージョンと互換性があります。最高のパフォーマンスを得るために最新のバージョンを使用することをお勧めします。

Adobe

- ・ Premiere Pro - CC 2018、2017、2015
- ・ After Effects - CC 2018、2017、2015
- ・ Photoshop - CC 2018、2017、2015
- ・ Prelude - CC 2018、2017、2015
- ・ Audition - CC 2018、2017、2015

Avid

- ・ Media Composer - 2018.x、8.10、8.9、8.8、8.7、8.6、8.5、8.4

Telestream

- ・ Wirecast - 8.x、7.x、6.x

その他の互換アプリケーション

- ・ <http://www.aja-jp.com/products/kona#ソフトウェア対応表>
- ・ <http://www.aja-jp.com/products/io#ソフトウェア対応表>

*その他のアプリケーションで使用するために必要な AJA ドライババージョンの詳細については各ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

v14.0.2 での修正点および改善点

Io 4K Plus、Avid DNxIV

- ・ Io 4K Plus および Avid DNxIV において、ファンスピード制御を改善
- ・ Avid DNxIV でのマイク入力時において、ゲインノブのジグザグ音を除去

v14.0 で廃止になった機能

Io 4K Plus、Io 4K、KONA 4 ファームウェア

- ・ スクエアディヴィジョン使用時のみ、クアッドリンク SDI 入力ソースは HDMI 出力では UHD として認識することができなくなっています。その代わりに、HDMI 出力は HD モニタリングとしてダウンコンバートされるようになります。

注記：

この制限は、**2 サンプルインターリーブ (2SI) 入力ソースには適用されません。**

2 サンプルインターリーブ (2SI) 使用時には、クアッドリンク SDI 入力ソースは HDMI 出力において UHD としてモニタリングすることができます。

- ・ ハイフレームレート非対応のモニターで HDMI プレイバックを容易にするために、ハイフレームレート素材の信号を間引くことはできなくなりました。

以前のリリースでの修正点および改善点

v14.0.1

- ・ Io 4K Plus および Avid DNxIV において、HDMI オーディオ Ch 3/4 の入れ替え機能を追加
- ・ Io 4K Plus、Io 4K、KONA 4 および Avid DNxIV において、SDI 入出力のクアッド入れ替え機能を追加

- ・ HDMI 出力のタイミングおよび安定性を全般的に修正（特に HDMI 1.4 モニターへの対応を改善）
- ・ macOS での、KONA 4 からの HDMI 出力における不具合を修正
- ・ 2SI（ツーサンプルインターリーブ）での UltraHD フォーマット HDMI の出力における不具合を修正
- ・ HDMI を入力ソースとした場合に、入力信号の認識が一時的に止まる不具合を修正
- ・ 4K 出力の際に SDI 3 からの出力が欠けている不具合を修正
- ・ SD 出力でのクローズドキャプション機能の不具合を修正
- ・ コントロールパネル上でのインプット・パススルー画面で、挙動を正しく表示するよう修正（HDMI ダウンコンバート時）
- ・ コントロールパネル上で、接続された機器が Io 4K Plus と Avid DNxIV とも表示されてしまう不具合を修正
- ・ AJA Multi-Channel Config がウイルスチェックソフトウェアと干渉する不具合を修正
- ・ macOS および Windows インストーラーで Python モデルを使用できるよう改善
- ・ キャプチャー中に、AJA コントロールルーム上でリップシンクずれのエラーメッセージが表示されてしまう不具合を修正（キャプチャー動作自体には問題はありません）
- ・ キャプチャー中に、Adobe Premiere Pro 上でリップシンクずれのエラーメッセージが表示され、キャプチャー結果では同期が外れてしまっている不具合を修正
- ・ Avid Media Composer で、プレイバック開始時にスナップバックが一時的に止まる不具合を修正
- ・ Avid Media Composer で、P/PsF 切り替え時の反応を改善（このバージョンでは即座に反応するようになっています）

v14.0

- ・ AJA コントロールパネルへオーディオミキサーを追加
- ・ Adobe Premiere Pro CC において、インターレース素材の逆再生（フィールドが正しく入れ替えられていない部分）を修正
- ・ Adobe Premiere Pro CC において、アイコンをスクラブしビンからクリップをキューする際、1回目の再生時に生じる停止フレームの不具合を修正

- ・ Adobe Premiere Pro CCでビデオディレイがゼロを超えて設定されているときの再生がジャンプする問題を修正
- ・ 機器を接続せずに AJA コントロールパネルを立ち上げた場合、アプリケーションが終了してしまう不具合を修正
- ・ AJA コントロールルームにおいて、Batch Capture ビン画面に VTR オンライン/オフラインアイコンを追加
- ・ AJA コントロールルームにおいて、“OK” をクリックした際にバッチキャプチャーの間に、デバイスオフラインのダイアログが表示されず、ループしてしまう不具合を修正
- ・ AJA コントロールルームにおいて、DPX Cineon ヘッダーシークエンスのプレイバックでのタイムコード不具合を修正
- ・ AJA コントロールルームにおいて、DVCProHD を“on the fly”（即時）でキャプチャーする際、実際に開始するキャプチャーが 1秒遅れる不具合を修正
- ・ AJA コントロールルームにおいて、プレイバックビューワーに読み込まれたクリップが削除される不具合を修正
- ・ KONA LHi および KONA LHe Plus アナログコンポーネント入力では HD フォーマットを認識しない不具合を修正
- ・ Windows のプログラムと機能において、AJA Desktop uninstaller の名前を変更
- ・ T-TAP において、断続的な VariCam 720p プレイバック時の不具合を修正

v13.0

- ・ Adobe Premiere Pro CC でループ再生中にビデオフリーズしてしまう不具合を修正
- ・ Windows 7 で NVIDIA グラフィックカードを使用する際、Adobe Premiere Pro CC のインストール時にアプリケーションがフリーズする不具合を修正
- ・ Adobe Premiere Pro CC で RGBA 8 ビットキャプチャーすると不完全なビデオになってしまう不具合を修正
- ・ Adobe Premiere Pro CC がインストールされていない場合でも、Adobe After Effects 向けの AJA プラグインがインストールされるように改善
- ・ AJA Control Room で新しいファイルで上書きしようとする際、クリップが重複してしまう不具合を修正

- ・ AJA Control Room GUI で、入力機器が接続されていない場合に問題があった、キャプチャー/プレイバック画面の不具合を修正
- ・ AJA Control Room で編集のイン点 (In Point) を見失う不具合を修正 ("go to IN" 以降でコマ送りしながら往復している状態)
- ・ AJA Control Room でインポートされた Apple ProRes クリップが正しく認識されるように修正
- ・ Thunderbolt のプラグアンドプレイ性能の向上
- ・ DF RP188 キャプチャー時のタイムコード検知を修正 (ドロップフレームがノンドロップフレームと検知されていました)
- ・ Io 4K と KONA 4 の SDI 4 出力に水平ノイズが発生する不具合を修正
- ・ UHD のテストパターンを修正
- ・ ETT (Edit To Tape) の不具合を修正 (DVCPro HD クリップが読み込まれている場合、ビデオ入力に歪みが発生)
- ・ AMD グラフィックカードとの互換性を向上
- ・ DVCPro HD ルーティングの不具合を修正 (DVCPro HD 再生に問題があります)
- ・ AJA Io 4K での HDMI 入力時に不完全なビデオが生成される不具合を修正
- ・ AJA KONA LHi でのアナログ入力をリファレンスとして選択している場合に HDMI 入力のリファレンスソースとして置き換わってしまう不具合を修正
- ・ Level B の処理を改善 (AJA デバイスへの入力時)

v12.5.1

- ・ Windows 10 で特定の更新を適用後に Premiere のキャプチャー設定で黒い画面が表示されることがある問題を修正
- ・ Adobe Premiere 2017 で 12 ビット HDR カラースペース設定が抜けていた問題を修正
- ・ 32 ビット整数オーディオでキャプチャーされた QuickTime ファイルが、一部のサードパーティアプリケーションで再生されない問題を修正
- ・ Adobe Premiere での非互換性を防ぐため、MXF から 32 ビットオーディオオプションを削除

- ・ KONA LHi でのアナログ入力ビデオソース時のゲンロック選択を修正
- ・ Avid Media Composer で JKL キーボードを素早く操作すると、オーディオをループしてしまう問題を修正
- ・ AJA Control Panel のテストパターンドロップダウンの列をクリックすると AJA Control Panel がクラッシュする問題を修正
- ・ T-TAP で 2K 23.98 の再生問題を修正
- ・ 新規 Windows 10 環境でドライバーがロードされない問題を修正

v12.5.0

- ・ RP188 LTC のみがある場合に RP188 VITC が表示される問題を修正
- ・ SDI 2 のアンシラリー タイムコードが AJA Control Panel に表示されていなかった問題を修正
- ・ lo 4K を電源を入れたまま引き抜いた際、アプリケーションがハングしてしまう問題を修正
- ・ 多くの不正なVPID (ビデオペイロード識別子) 問題を修正
- ・ 4K/UHD の 2SI 入力が KONA 4 と lo 4K で正常にキャプチャーされない問題を修正
- ・ Control Room のキャプチャークリップが常にノンドロップタイムコードになってしまう問題を修正
- ・ Windows 上でファームウェアの自動アップデートが正常に完了しない問題を修正
- ・ AJA Control Panel の全ての“425”文字列を 4K と UHD を伝送する方式 2サンプルインターリーブを示す “2-SI” に変更
- ・ Adobe 再生環境設定を変更した後、Premiere Pro で AJA 出力が使用不可になる問題を修正
- ・ Premiere Pro のキャプチャーでステレオオーディオを選択しても、ディスクリートモノラルトラックでファイルが作成される問題を修正
- ・ アプリケーションを終了すると HDMI オーディオ出力が常に 8チャンネルにリセットされる問題を修正
- ・ Premiere Pro でタイムラインからタイムライン、またはタイムラインからソースモニタに切り替えるときに AJA 出力で古いビデオフレームが点滅する問題を修正
- ・ Wirecast 出力のオーディオスタッターによる問題を修正
- ・ Wirecast で記録されたファイルとライブストリームで作成されたバックグラウンドノイズの問題を修正

v12.4.1

- ・ AJA ドライバーに起因する AJA ハードウェアのシリアルナンバーを正しく読み込めない問題を修正

v12.4.0

- ・ Premiere Pro で Mercury Playback Engine の設定が GPU 高速処理になっていない場合に 8-bit YUV 設定の再生が不正になる問題を修正
- ・ Premiere Pro でトリム機能を使用するとビデオ出力がフリーズする問題を修正
- ・ オーディオハードウェアを使用する方法を変更
- ・ AJA Control Panel が 1080p ハイフレームレート 3G Level B のユーザー設定を保持できない問題を修正。以前は再起動した後に常に Dual Link 1.5G にリセットされていました。
- ・ AJA Transmit プラグインで buffer mode を minimum に設定しオーディオのみのファイルを Premiere Pro のソースモニターで再生するとオーディオがどもる問題を修正
- ・ After Effects から他のアプリケーションに切り替えても AJA ハードウェアを解放しないレガシーな AJA After Effects プレビュープラグイン (Blithook) の問題を修正
- ・ Adobe After Effects のサポート方法を変更。以前は 2 つの異なるプラグインをインストールしていました。"Blithook"プラグインは古いレガシーなプラグインのためデフォルトではインストールされなくなりました。必要な場合はインストーラーのオプションから選択してください。Transmit プラグインはデフォルトのインストールオプションとしてインストールされます。詳しくは Adobe のプラグインマニュアルをご確認ください。
- ・ AJA Control Room で QuickTime ファイル生成時に NCLC カラープロファイルを追加
- ・ AJA Control Room と Adobe キャプチャープラグインの DNxHR コーデックをアップデート。DNxHR のキャプチャーパフォーマンスを改善
- ・ AJA System Test が T-Tap の DMA スピードのテストに失敗する問題を修正
- ・ AJA ハードウェアが 25 または 50 fps モードの際に AJA Control Room と Premiere Pro のキャプチャープラグインに DV と DVCProHD コーデックが表示されなくなる問題を修正
- ・ Media Composer が 1080p 50/59.94/60 のプロジェクトを常に 3G SDI Level A モードとして AJA ハードウェアを切り替えてしまう問題を修正。以前はデュアルリンクと 3G SDI Level B は設定することが不可能でした。ユーザーは AJA Control Panel でこの設定を選択することができるようになり、Media Composer を起動する前に設定することで適用されます。
- ・ AJA Control Room で バッチキャプチャーが失敗する問題を修正

- ・ Premiere Pro の Windows バージョンにおいて AJA ASIO ドライバーが適切に動作しない問題を修正
- ・ AJA Control Room で DNxHR の規則に合わせるために DNxHD の命名規則を変更
- ・ AJA Control Room で常に バッチキャプチャーで作成したファイルの オーディオが 16トラックになってしまう問題を修正
- ・ lo 4K が 10bit HDMI 入力を 8bit として扱ってしまう問題を修正
- ・ Premiere Pro で DV 圧縮を使用したキャプチャーの問題を修正
- ・ ホストコンピューターのスリープ後に lo 4K から不正なテストパターンが出力される問題を修正（要ファームウェアアップデート）
- ・ AJA Control Room で複数の DNxHD クリップをキャプチャーすると AJA Control Room がクラッシュする問題を修正
- ・ Windows バージョンの AJA Control Room においてアイドル状態（動作をしていない状態）の際に使用可能な CPU コアを 100% 使用してしまう問題を修正
- ・ Mac と Windows のインストーラーはデフォルトでレガシーな AJA After Effects プレビュープラグインをインストールしないように変更されました。プラグインはインストーラーの中にはまだ含まれており、インストールするにはカスタムインストールでユーザーが選択する必要があります。この古いプラグインは高速な伝送速度が不要な場合のみ使用してください。
- ・ KONA 3G が SDI 入力 2 からの RP-188 タイムコードを正確に読み込めない問題を修正（要ファームウェアアップデート）
- ・ AJA Control Room の バッチキャプチャーでキャプチャーを開始した後にアウトポイントの値が変更されて表示される問題を修正。アウトポイントの値が不正確なのは見た目上だけで、設定したアウトポイントは実際には正確です。
- ・ Avid Media Composer の タイムラインの再生で開始のフレームがまれにスキップされる問題を修正
- ・ Avid Media Composer の スクラブ後の再生で最初のフレームがまれに不正確なフレームになる問題を修正
- ・ Avid Media Composer の ループ再生が原因で exception error を引き起こす問題を修正
- ・ Premiere Pro のビデオとオーディオのミリ秒のオフセットによりタイムラインの再生の開始時に数フレームのビデオをまれにスキップする問題を修正
- ・ AJA Control Room の VTR アウトポイントの表示が バッチキャプチャーの開始後に変更されてしまう見た目上の問題を修正（キャプチャーされたファイルのアウトポイントは正常）

- ・ KONA LHe+ の AJA Control Panel で AES XLR がオーディオ入力ソースとして選択できない問題を修正（要ファームウェアアップデート）
- ・ Io 4K にて AJA Control Panel でのアナログオーディオの設定が正確に反映されない問題を修正
- ・ Adobe Premiere Pro で 720p フォーマットを元ファイルに正確なフレームでキャプチャーできるように修正
- ・ Adobe Premiere Pro のデバイスコントロールプラグインを端数（0.5 単位）のフレームオフセットが行えるように改善。端数のフレームオフセットは、断続的に行う編集やキャプチャー時に、フレーム未滿でキャプチャーやテープ出力のオフセットを微調整するために使用することができます。
- ・ Adobe Premiere Pro で RP-188 タイムコードを正しくキャプチャーできるように修正
- ・ T-Tap と Io Express で Premiere Pro の 正しいビデオフォーマット設定が保持できない問題を修正
- ・ Io 4K で RGB の HDMI 入力が正しく動作しない問題を修正
- ・ AJA Control Room の インサート編集でオーディオの最初のフレームが挿入されない問題を修正
- ・ Adobe Photoshop で AJA インポートプラグインを使用してキャプチャーをした際に入力された画像のクロマレベルが低くなる問題を修正
- ・ 2 サンプルインターリーブ形式の VPID データの不具合を修正
- ・ Io 4K と KONA 4 の 4K と UltraHD の HDMI 出力におけるバンディングを修正
- ・ Io 4K と KONA 4 で ダウンストリームキーヤーを使用した際に画像が歪む問題を修正
- ・ ビデオフォーマットを切り替えることで画像が誤って垂直方向にロックしてしまう問題を修正
- ・ Premiere Pro の再生設定におけるオーディオとビデオのオフセット設定を修正

関連製品

今回の更新で対象となる製品は以下の通りです：

・ Io 4K Plus

・ Avid DNxIV

既知の問題

一般

- ・ KONA や Io のデバイスを使用時、システムをスリープにしないでください。オペレーティングシステムの設定でスリープと省電力モードを無効にする必要があります。
- ・ AJA Control Room と Adobe Premiere CC の MXF OP-1A キャプチャーでは、720p60 , 1080i30 , 1080p30 , 1080p60 のフォーマットはサポートされていません。
- ・ KONA LHi はオーディオシステムを 1つしか持っていないため、キャプチャーや出力で同時に使用できるオーディオは 1系統のみに制限されます。同時に複数チャンネルの入力と出力に対応したアプリケーションでは、SDI 入力にエンベデッドされたオーディオが使用されますが、HDMI ではオーディオを入力できません。入力と出力それぞれが一度に独立した状態で使用される場合（入力からのパススルー出力ではなく）のみ 1系統のオーディオチャンネルを使用することができます。

Wirecast

- ・ Io 4K や KONA 4 のようなマルチチャンネルのデバイスで構成され、ライブのプログラム出力機能を使用する場合には始めに入力の設定を構成する必要があります。この場合、マスタークロック（NTSC もしくは PAL）をデバイスに設定することになります。そうでない場合、デバイスはデフォルトの 1080i 29.97 に設定され、PAL と NTSC のクロックの混合を引き起こす可能性があります。必ず Wirecast を起動する前に AJA Multi Channel Config で入力と出力をすべて設定してください。

Adobe Plug-Ins

- ・ シーケンスとハードウェアのフレームレート設定が異なると、適切なオーディオ出力が得られない場合があります。
 - 720p50/59.94/60 以外の 720p フォーマットで発生する可能性があります。
 - この制限を回避するには、Premiere Pro の再生設定で、AJA ビデオデバイスを「Match Control Panel」に設定します。その後、AJA Control Panel を使い、出力に対して 1080 フォーマットへのクロスコンバージョンを設定します。例えば、720p23.98 プロジェクトを使用する場合は、SDI 出力を選択して 1080PsF23.98 フォーマットを選択し設定します。
- ・ クラッシュキャプチャーにおいて、RS-422 タイムコードをキャプチャーすることはできません。RS-422 タイムコードに変えてエンベデッドタイムコードを使用する事を推奨します。
- ・ VFR にプルダウンが追加された場合、タイムコードは調整されません。
- ・ HD-SDI 経由のクラッシュキャプチャーおよびプリントにおいて Varicam フレームレートでの動作は可能ですが、インサート編集やイン点・アウト点を指定してのキャプチャーやバッチキャプチャーは行えません。

- ・ パナソニック社製のデッキにインサート編集を掛ける際、正しく編集を行えない場合があります。この問題を回避するためには、メニュー項目 202 “ID SEL” が “OTHER” に設定されていることを確認してください。
- ・ デッキ制御において 4 秒以下のプリロールは推奨しません。
- ・ Premiere Pro のモニタ設定のデフォルトは“最初のフィールド”となっています。インターレースを正しく表示するには“両方のフィールド”を選択してください。
- ・ Premiere Pro のキャプチャーウィンドウを開いた状態で、デッキのテープが DF から NDF に変更された場合、DF/NDF ステータスを正しく検知できない場合があります。このとき、Premiere Pro のキャプチャーウィンドウに表示されるタイムコードは正しくない可能性があります。
 - 同じキャプチャーセッション中に DF と NDF のテープ混在がなければ、この問題はユーザーに影響しません。
 - ▶ 対処方法：テープチェンジ時に表示されるダイアログにてテープ名を与え、OK をクリックする前に新しいテープをスプールしてください。
 - ▶ 回避方法：キャプチャーウィンドウを一度閉じて、再度開きます。
- ・ Panasonic D5 デッキを使用してキャプチャー/テープへ書き出しを行う際は、AJA Premiere Pro Device Control プラグインのタイムコードソース設定を LTC+VITC にしなければなりません。

Avid Open I/O Plug-ins

- ・ AJA デバイスをオーディオのみキャプチャするために“キャプチャーツール”で使用するためには、“キャプチャーツール”で AJA デバイスを選択している必要があります。
 1. キャプチャーツールを開く
 2. AJA KONA あるいは AJA Io などのビデオ入力およびオーディオ入力を選択
 3. オーディオのみのキャプチャーを開始
- ・ AJA デバイスを“オーディオパンチインツール”で使用するためには、“キャプチャーツール”で AJA デバイスを選択している必要があります。
 1. キャプチャーツールを開く
 2. AJA KONA あるいは AJA Io などのビデオ入力を選択
 3. キャプチャーツールを閉じる
 4. オーディオパンチインツールを開く
 5. AJA KONA あるいは AJA Io などの入力デバイスを選択
- ・ Open I/O Plug-ins がインストールされているタイムラインの不特定なループは、Avid アプリケーションの再生停止や、エラーメッセージの原因となる可能性があります。
- ・ KONA 3 もしくは KONA 3G でデュアルリンク RGB ソースをキャプチャーする場合、E/E されるデュアル SDI 出力は正しくない可能性があります。

- ・ AJA ハードウェアはコントロールパネルを使用してゲンロックを 'Input' と 'Reference' で切り換えることができますが、Media Composer でキャプチャーを行う場合、この選択によってバッチキャプチャーを正しく行えない場合があります。この問題を回避するにはゲンロックを "Input" に設定します。
- ・ アナログビデオ入力 は Media Composer のキャプチャーツールに正しく検出されない場合があります。この問題は Media Composer の起動時にソースビデオを再生しておくことで回避できます。